2023 年 年頭所感

一般社団法人 日本物流システム機器協会
会長　下代　博

明けましておめでとうございます。
2023 年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の波を受けながらも、徐々に日常生活や経済活動は回復してきたと感じています。

9 月には、当物流システム機器協会（JIMH）も主催団体の一つとして参画している国際物流総合展 2022 が 4 年ぶりに東京ビッグサイトで開催され、過去最多の出展者を擁して、来場者が 6 万人を超えるという結果を残せました。来場された多くの方々に、進化し続けるマテリアルハンドリング（マテハン）技術や物流システム機器をご覧いただく場となり、当業界への注目や期待がより高まったのではないかと考えます。

物流を取り巻く環境が大きく変化し、人手不足解消や生産性向上に寄与する重要な社会インフラとして位置付けられるようになった物流システムは、将来にわたって世界中で産業を発展させ、暮らしを豊かにし続けていくことが可能だと考えています。一方、足元では、いよいよ迫ってきた 2024 年問題に対しても物流システム機器業界の大きなテーマとして捉え、荷主・運送事業者・ドライバーが共存していくための、より高度な自動化・省力化ソリューションの提供に尽力していく必要があります。

また、ESG やサステナビリティといったテーマに対しては、産業構造や社会経済を変革し、環境への負荷を最小化することが期待されているグリーントランスフォーメーション（GX）をいっそう推進していかなければならないと思います。

社会へ、お客様企業へ、新たな物流価値を創出していくことが期待される物流システム機器業界。その期待に応えるため、JIMH はこれからも産業界への貢献と当業界の発展を目指し、たゆまぬ努力を続けて参りたいと考えておりますので、皆様の変わらぬご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

結びに，本年も皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げ，年頭の挨拶とさせていただきます。

2023 年　新春